

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3092200140		
法人名	株式会社 雄 清		
事業所名(ユニット名)	グループホーム なかはや		
所在地	和歌山県田辺市中芳養 917-7		
自己評価作成日	平成28年6月22日	評価結果市町村受理日	平成28年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成28年8月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域の中に違和感なく溶け込み管理者・職員は利用者と共に日々の暮らしを楽しみつつ開設5年目を迎えています。屋内に閉じこもる事の無いように、自由に近隣へ散歩に出かけたり、玄関先のプランターの季節の野菜や花の手入れをしたり、眺めたりと少しでも外気に触れる機会を多く持てる様に支援しています。「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」「おかえり」「ただいま」と元気な挨拶が響き、笑い声や楽しそうな話し声が溢れている毎日です。地道な積み重ねを継続することで、ご利用者やご家族、又、地域の方々からも評価していただける事業所を目標として日々取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所が開設され5年目を迎えており、開設当初から入居されていた方も年を重ね、以前は出来ていたことも徐々に出来なくなり、介護が必要な場面も増えてる。しかし、その分、職員との信頼関係も深く築け、落ち着いた生活を過ごされている。また、介護の重度化への対策として設備の改修計画等、いつまでも快適に過ごせるよう取り組んでいる。加えて終末期ケアへの取り組みも本格的に検討し、利用者・ご家族が安心してもらえるよう努力されている。開設当初から実施されている受診の支援は、現在も事業所が主体となって実施しており、利用者及びご家族から感謝されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲げると共に、理念を具体化したものを示している。管理者・職員は常に利用者や家族に満足して貰えるよう、又、職員自身の自己成長も図りながら理念達成に向けて取り組んでいる。	事業所の理念を基本にケアが実践されているが、具体的には、『利用者の満足』『家族の満足』『職員の満足』。この3つの『満足』を常に職員が意識してケアが実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所で幼稚園児を招待して交流会を開催し、歌やダンスを披露して貰い一緒にレクリエーション等をして楽しく過ごした。また、地域の祭りでは馬を玄関先に連れてきてくれて馬子唄を歌ってくれている。	経営者は、昔から事業所がある地域の住人であるので、地域との信頼関係はもちろん、自ら積極的に地域との交流を図っている。また、老人会、小学校、幼稚園との交流は盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、小学校の体験学習を受け入れており、幼稚園児や地域の方々への訪問もあり、事業所の存在や認知症の方への理解は確実に深まっており地域貢献に繋がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用状況や事業所の取り組み内容を報告している。又、避難訓練や外部評価等についても話し合いの機会を持ち、出された意見については積極的に実践に活かしている。	2ヶ月に1回偶数月に開催されており、老人クラブ会長、町内会長、田辺市地域包括支援センター職員、民生委員の方も参加している。また、全ての家族に通知をして参加を促がしている。消防関係に詳しい出席者から防災についての意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当職員に運営推進会議に出席して貰っており事業所の実情や取り組みを話して意見などを頂いている。又、日常的には各部署の担当職員と連携を図りながら助言等頂いている。	市の担当課の職員や地域包括支援センター職員には、運営推進会議に出席してもらったり、生活保護課のケースワーカーと連携を図ったり、様々な相談や報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないケアについて十分理解しており拘束となる行為は行っていない。又、玄関は夜間以外は常に開放しており自由に出入り出来るようになっている。	身体拘束をしないケアの実践については全ての職員に周知している。具体的な取り組みとして、夜間以外は、玄関を開放し、安全に配慮しながらも利用者の行動を制限することなく見守りをする等、利用者個々の状況に応じた寄り添ったケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は虐待防止についての研修などに参加したり、伝達講習などを実施して正しく理解し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加して制度の理解に努めているが、具体的に対象となる方がおられない為活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や法改正等による改定がある場合は、文書等を準備した上で家族に説明し、十分納得される様に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などで来所された時には出来るだけ時間をかけて要望や意見を聞かせて貰うようにしており日々の業務等に反映させている。	利用者には、職員が積極的にコミュニケーションを図り、日常の会話の中から意見や希望を聴くようにしている。また、ご家族からは、面会時には話をし、信頼関係を築き、意見を出してもらえるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議の中で職員から意見や要望などを聞いているが日常業務の中でもその都度意見が出される。又、年に何回か個人面談を行い職員の意見を聞く機会を設けており出された意見は運営に反映するように努めている。	月1回の全体会議では、職員の意見を聞き、改善すべき事柄などあれば施設運営にも反映させている。物品購入についても必要な物は、購入するようにしている。チームワークを重視し、個別面談を実施したり、職員の役割変更も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分に把握できていないところもあるが、給与、労働時間、職場環境は、出来る限り他に劣らないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修に積極的に参加してもらったり、施設内でも伝達講習や勉強会を行い質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者との交流はないが研修等の機会に同業者の取り組み状況などを聞いてきて良い所は取り入れて行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった時点で本人が困っている事や不安に思っている事を十分に聴かせて頂き、要望に沿った解決の方法を一緒に考えることで本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、在宅で生活する上でどのようなことが問題なのか、要望なども聞きながら、事業所としての対応方法・終末期の話など不安な部分等について十分話し合い、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況等を聞き取り、事業所として出来る必要な支援と、他の利用可能な社会資源等を提案し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で十分に時間をかけて信頼関係を築き、喜怒哀楽を共にするより良い関係で生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状況をこまめに報告し、一寸した事でも家族に相談しながら本人との関係性を維持できる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していた理髪店や美容室を利用し、馴染みの店で買い物をする等、入居する前に行っていたことを出来るだけ続けられるように支援している。	馴染みの店での買い物やいきつけの理髪店・美容院を利用できるよう支援している。また、知人や友人の面会、手紙や年賀状など、昔からの馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立せず、トラブルにならないよう、座る席も配慮している。又、仲の良い利用者同士で誘って散歩に出かけて貰う等、利用者同士の関係がうまくいくように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院して契約終了した場合等、引き続き状態を伺いながら、医療機関や家族から話を聞かせていただき、必要に応じて相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話から本人の思いを汲み取れるように記録しており、月1回の会議で職員間で共有し本人の意向の把握に努めている。	毎朝のミーティングや月1回の全体会議、毎日のケース記録から情報を共有し利用者一人ひとりの思いの把握に努めている。また、利用者やゆっくりとコミュニケーションを図り、何気ない普段の会話から、生活の希望や思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や今までの暮らし方についてはセンター方式を用いて聞き取りを行っている。又、日々の会話の中でも今までの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のその日の状態や出来る事などを申し送りして把握し、会話や表情などを観察し状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議で本人の意向や現状について話し合っている。家族には面会時等に本人の状態を報告する中で意見を頂き、医療関係者には受診や往診時等に意見聴取し現状に即した介護計画を作成している。	本人の希望やご家族の意向も確認し、主治医、訪問看護等の医療関係者の意見等も取り入れ、十分に話し合いを重ねた上で介護計画を作成している。又、月1回の職員会議で一人一人の状況を確認し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ詳細に記録し、職員間で情報の共有を行っている。月1回会議を持ち、本人の意向の把握に努め、介護計画の見直し等の必要性についても検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院の送迎や付き添いは基本的に事業所に対応し、家族と共に医療機関との密な連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に幼稚園・小学校があり、年間行事として訪れてくれる事があり、子供達との交流の機会が持っている。又、近くに八幡神社があり秋祭りには、地区青年団が馬を連れて来て馬子唄を聞かせてくれ、皆で楽しむ事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診はあるが、今までのかかりつけ医や希望の病院への受診を支援している。病状の変化等で新たに受診する場合も、家族と本人の希望に沿って最適な医療を受けられる様に支援している。	協力医療機関による往診や利用者やご家族の意向により入居前からの主治医や医療機関への受診支援を行っている。医療機関までの送迎や院内の付き添いも殆ど施設の職員が行い、主治医との円滑な連携がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。又、必要時は法人内に勤務している看護師に相談して連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携室への情報提供を行い、本人に面会して状態の把握に努めている。退院時には、カンファレンスを依頼し、退院後の注意事項、入院中の様子などを教えて頂き、職員間で情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応指針を文書化しており家族の同意を得ている。重度化が懸念される利用者については、その都度医師や家族と十分に話し合っ終末期に向けた支援を行っている。	事業所として、終末期の看取りをした経験は無いが、今後取り組むべき課題として、ご家族、主治医、看護師等と連携し前向きに検討している。また、利用者の重度化への対応は、解決すべき課題として、入浴設備の改修等、検討中である。	重度化した場合や終末期の対応について、指針やご家族への同意書など書類は整っているが、具体的な取組みとして、医療関係者との連携や職員研修、マニュアル作成等、利用者やご家族が安心して終末期を迎えられるよう必要な対策を進めていただける事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救命救急士による講習を行っている。職員全員が心肺蘇生法とAEDの使用方法を学んで実践している。救急車の呼び方や誤嚥時の対応などについても、対応の方法を講習して頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署立ち合いで火災避難訓練を実施しており施設内でも1回行っている。地域の方々にも運営推進会議を通じて災害時の協力をお願いしているが今年度については近隣の方にも避難訓練への参加を依頼する事になっている。	年2回、消防署の指導を受け、利用者も参加し、避難訓練を実施している。実際の避難場所は、近くの高台にあるが、移動の困難さを考えると災害の種別によっては事業所内での避難も想定している。また、水や非常食等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助時は男性と女性の拘わり方に配慮し、入浴、トイレ介助などもプライバシーの保護に努め、声掛け等についても誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	特に、入浴や排泄介助をする際は、利用者の人格を尊重し、言葉使いやプライバシーへの配慮など丁寧な対応に努めている。また、個人情報として取り扱うべき利用者の個別の情報は、事務室で大切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面において、本人が選択できるような尋ね方をして出来るだけ自己決定を促している。どちらでも良いと言う場合は、職員の判断ではなく、提案するような形で本人の思いを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位ではなく本人の体調や気分等に十分配慮して食事、入浴、外出等支援しており、本人の希望や個々のペースを大切に对应している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んで着て貰ったり、行きつけの美容院や理髪店に通われる等楽しみながら身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物を尋ねたり、季節感に配慮した献立をたてており、盛付けやおしぼりの準備や下膳など可能な部分は一緒に行って貰っている。	毎日の献立は予め決めずに、利用者の希望も聴きながら、残った食材や季節の食材を取り入れて、柔軟に対応し、より家庭的な食事を提供している。また、食事の準備や片付け等、利用者個々の能力を把握し、楽しむことが出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を使用し栄養バランスを考えた調理を行っており摂取量は水分量と共に記録している。一日を通じて水分摂取を勧めているが、少ない人には野菜ジュース等本人の好みに合わせたり色々工夫して摂って貰っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや誘導を行い、本人の状態に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛けしてトイレ誘導を行うなど支援している。リハビリパンツやパットを使用しつつトイレでの排泄を支援している。	日中は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう対応している。オムツをされている利用者は、少しでも自立若しくは、状態が低下しないよう少しでも長く現状維持できるよう取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分を多く摂って貰い、ヨーグルトやバナナ、野菜の摂取を勧めている。又、日中は体調を見ながら近隣を散歩する等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日や時間帯は決めさせて貰っているが、利用者の希望があった場合はいつでも対応できるようにしており、一人一人ゆったりと十分余裕を持って入浴している。	利用者の意向や習慣を把握し、一人一人の入浴を希望する時間帯を把握しているが、その日の体調や意向を尊重し臨機応変に対応している。希望があれば、夕方や夜間に入浴できるよう職員体制を変更する準備も整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調、今までの生活習慣を考慮して、その人に合った休息や安眠ができるように支援している。就寝前の入浴が習慣になっている場合は気持ちよく入眠できるように入浴を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容・効果・副作用等の説明書をファイルして職員が常時確認出来るようにしている。飲み忘れ・誤薬が無いよう職員同士で確認する等十分注意している。又、緩下剤は排便の状態によって調整して服用して貰っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を宣んだりおしほりの準備をする等可能な部分で手伝って貰って気分転換の機会を持っている。テレビで相撲や時代劇を楽しんだり、併設の事業所と一緒にレクリエーションを楽しむ事もある。玄関先にプランターで野菜や花などを植えており、眺めたり手入れをしたり等の楽しみもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中でどこに行きたいなどの話が出た時には、施設で行ける範囲は職員と出かけたりにしている。遠方への希望は家族に行きたいとの希望あることの話をして相談している。日常的には近隣への散歩や玄関先に出て外気浴をする等支援している。	事業所周辺は、自然豊かで、日常的に、近隣への散歩や外気浴等の支援がなされている。また、5台の車両が整備されており、お花見等、行事での外出はもちろん、買い物、外食、ドライブなど個別の外出支援も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の現金を自分で管理をされており、欲しいものがある時には自分で管理されている中から支払いをしている。職員は見守りを行い出来ない時には声かけて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今までのつながりを大切に、年賀状を書ける方には年末になると声をかけたり、希望時に切手や葉書を準備したり投函する等支援している。家族との電話を取り次ぐ事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は食堂と兼ねており、直ぐ近くで調理の様子が見て取れ、美味しい匂いと共に生活感を味わえている。又、玄関には花を生き季節感を採り入れており、自然豊かな環境なので外出することで季節を感じることができる。温度は冷暖房で調節し適宜換気をするようにしている。	玄関は明るく、小休止するための長椅子が置かれていたり、出入りをし易くする工夫がなされている。居間も明るく清潔で、限られた空間を落ち着いた雰囲気でも過ごせるよう工夫されている。また、カウンター越しに食事を用意している音や香りがして家庭的な雰囲気を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で食事の机を一緒にして、安心して食事などを楽しめるようにしている。玄関近くに長椅子や一人用の椅子を置いてあり、思い思いに過ごして貰えるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた鏡や愛用の椅子等を持ち込み、家族の写真を飾っておられる等一人一人の居心地のよさを配慮している。部屋が分からない利用者には入口にお気に入りの服で家族が作ってくれた暖簾をかけている。	十分な備え付けの家具も用意されているが、利用者の自宅から使い慣れた椅子等を持ち込んだり、家族の写真を飾ったりと居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体状況に合わせて手すりを設置し、玄関をスロープにしている。廊下・居室などの導線には物を置かず、自由に移動して頂けるようにし、トイレや一部居室には一目で分かるように張り紙で表示している。		